



西徳寺だより

7月号

Vol.155

お盆のお参りについて

お盆のお参りについて、コロナ禍を経て、一昨年より左記の形式をとらせていただいております。

色々細かく書いておりますが、どうぞ、お目通し下さい。

①直方市内・市外共に今までの戸別のお盆参りは中止して、その代わり本堂で合同のお盆参りをしております。

合同お盆参りの時間は左記の通りです。予約の必要はありませんので、ご自由にお参り下さい。

○八月十三日 八時半～・十時～・十四時～
 ○八月十四日 八時半～・十時～・十四時～
 ○八月十五日 八時半～・十時～・十四時～・十八時～



※合同お盆参りの時間は三十分程です。

※合同お盆参りの際、ご家庭のお仏壇にあります「過去帳」や

「繰り出し位牌(数枚の薄い板を収納出来る箱状のお位牌)」

をお持ち下されば、安置してお参りさせていただきます。

令和六(二〇二四)年七月発行 編集発行 篠田 尊徳
 〒八二二〇〇三四 福岡県直方市山部五四〇
 浄土真宗本願寺派 覺音山 西徳寺
 TEL 〇九四九二二〇六三六 HP <https://saiokujit.net>
 FAX 〇九四九二二〇六六七 MAIL saiokujit@oce.ocn.ne.jp



②ただし基本は本堂での合同お盆参りですが、ご自宅での参りを希望される方は、ご連絡頂けましたらお宅に伺います。

(一度ご連絡を頂きましたら今後は毎年お伺いいたします。

なお今年の戸別お参り申し込みは前号でご案内の上、すでに終了しております。ご連絡頂いた方のお参り予定は出来上がりしておりますので、日時をお寺までご連絡してご確認下さい。)

③初盆のお宅にしましては、今までと同様、一軒ずつ戸別にお参りさせて頂きます。お参りの予定が出来上がっておりますので、日時をお寺までご連絡してご確認下さい。

④最後に、お月忌参りですが十日(土)～二十日(火)までお休みとします。(この期間中でも休まずお月忌参りをお願いされている方は、お伺いいたします。)もし、今までは戸別のお盆参りがあるので八月のお月忌参りを中止していたが、今後は希望されるといふ方は、お手数ですがお寺までご連絡下さい。

以上、勝手なお願いではありますが、どうぞご理解の上、ご協力をよろしくお願い致します。

「電子マネーの違和感く願いが見失われてはいないか」

山口県長門市・極楽寺住職 池信 秀見

電子マネーが普及して、現金を持ち歩かない人が増えているようです。確かに便利ですよ。支払いはスムーズだし、ポイントが貯まってお得だし、銀行に行く手間も省ける。よい事ばかりと思いきや、実はそうでもないような。特にお寺にはなじまないと思うのは、私が古い人間だから・・・というわけでもないのです。

こんなエピソードがあります。ある保育所では、一つの問題を抱えていました。お迎えに来る親御さんの遅刻が増えてきたのです。お迎えまでの間、保育士さんが居残らねばなりません。困った保育所では、遅刻に対し「罰金」をとることにしました。ところが予想に反し、遅刻は増えたのです。なぜなら、「お金さえ払えば、遅れてもいいんだ」と「料金」のように受け止められ、それまで感じていた後ろめたさがなくなったからでした(マイケル・サンデル『それをお金で買いますか』)。

「罰金」には、やめてほしいという願いが込められています。しかし、それを「料金」とする時、願いは見失われます。お金を払うという行為は同じでも、中身は別物になるのです。私が電子マネーを警戒する理由は、ここにあります。これまではむき出しにせず、慎みをもって包み、手渡すという文化がありました。そこには「ただ、お金を渡しているのではない。心を手渡しているのだ」という

敬意と願いが込められていたのです。コスパ(費用対効果)やタイパ(時間対効果)という経済合理性から見れば、無駄に見える行為なのかもしれません。「ピツ」という電子音とともに、金額のみ行き交う関係が効率的。しかし、それだけでは見失うものがあるので。相手を思うが故の、ひと手間。込められた温もりやメッセージ。人間の営みは、効率や合理性だけでは量れません。それらに気づく感性が、電子マネーの普及により、ますます衰えそうに怖いのです。特に私は、流されやすいので。

そうになると、「御布施」も「料金」のように扱いかねません。「布施」とは本来、「施し」「喜捨」の意味で、仏教の重要な実践行為。自分の持ち物を他者に施すことで、執着から離れ、身心を整えるためのものです。その施しは、金品(財施)だけではありません。仏法の施し(法施)や安心感を与えること(無畏施)、笑顔(和顔施)などさまざまなものを施し施されることで、他者との関係が深まり、自らが育てられていく。それが「布施」という営みなのです。

その心を見失い、効率ばかりを重視すると、渡す側も受け取る側も、「料金」や「サービス」のように扱ってしまいます。いや、すでに扱っているのかもしれないが。

仏教説話「貧者の一灯」は、「王さまが金にあかせて寄進した多くの灯火は消えてしまったが、老女が貧しい中にも心を込めて寄進した灯火は消えなかった」というお話です。



金額の多寡たかよりも、真心が大切なのだというこの譬たとえ、きれいごとと受け止められがちですが、とんでもない。なぜなら、金額だけで人を量はかるとは、「もっと高い金額がもらえるのなら、あなたでなくてもいい」ということ。つまりは他者を、そして自分を取り替え可能なモノとして扱あつかうことであり、「あなたでなくてはならない」という「かけがえのないさ」を手放す行為だからです。ならば「貧者ひんじやの一灯いっとう」は、人間のかけがえのないさを奪あう行為に抗あらがう、仏法からのメッセージだと言うと大袈裟あはてしようか。

お寺は、経済活動の中にありながら、経済合理性とは違う枠組みで成り立っています。この私を「かけがえのない存在」だと願われる阿弥陀如来のはたらきと出あい、共に願いをかけられている「かけがえのない存在」としての他者と出あう。そんな温もりある願いが行き交う場なのです。そして、世の流れに對峙たいじし、抗あらがう価値観を発信できる場でもあると、私は考えています。

電子マネーが、すべていけないとは思いません。私も使っています。それに、貨幣経済が隅々すみずみにまで浸透しんとうし、さまざまなもの商品化されてしまった社会では、お金がどれほど重要かも身に染みしています。しかし、時代に流され、金額や効率はかでは量はかれないものに気づく感性を失うと、自分の人生も、そしてお寺の存在意義も見失ってしまうのではないか。そう警戒しながら、仏法に問い尋ねる日々を過すごしています。

(本願寺新報 二〇二三年六月二十日号より転載)

盂蘭盆法要のご案内

間もなく梅雨も明け、暑いお盆の季節となります。今年も西徳寺では三日間にわたり盂蘭盆法要をお勤めいたします。久しぶりに直方の地に帰って来られるご親族もいらっしゃると存じます。ぜひご一緒にお参りに来られて、共々に仏法に身を浸して下さい。本堂に冷房をつけてお待ちしております。

・日時 八月 十六日(金) 昼座
 十七日(土) 朝座・昼座
 十八日(日) 朝座・昼座

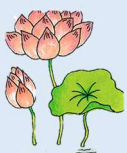
※朝座 午前十時 より 正午 まで
 ※昼座 午後一時三十分より 午後三時三十分まで
 ※お昼はお弁当を準備しております。
 ※講師 田川郡大任町 誓願寺 福高 英昭 師



納骨堂のお掃除、お手伝いお願い致します

お盆の納骨堂掃除を光明殿・智慧殿・清浄殿ともに左記の日程で行います。暑い中での作業ですので、くれぐれも体調に気を付けてお願いします。作業時間は一時間程です。

・お盆前のお掃除 八月 九 日(金) 十時より
 ・お盆後の片付け 八月二十一日(水) 十時より



西徳寺寄席。本堂に笑い声が響き渡りました

去る六月十四日(金)、西徳寺本堂にて林家 菊丸師匠をお招きして開催しました西徳寺寄席。八十名ほどの方が足を運んで下さいました。

「人数は多すぎても少なすぎても話しづらいが、今日ぐらいがちょうど良い。綺麗な人が多いと緊張して話しづらいが、今日ぐらいがちょうど良い。」と、出だしから絶好調。そこから笑って笑ってあつという間の一時間半。今年も本堂に笑い声が響き渡りました。

多くの方が西徳寺寄席の会場設営を褒めて下さったのですが、これ全てご自身も落語をされる直方市議会議員の中西省三さんと、その友人でご門徒の宮部康仁さん、そして見事な高座の下掛けを作成して下さいました原留美子さんと不調だった音響を調整して下さいましたニシヤマ電器さんのお力です。お陰様で心の底から楽しい時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございます。

菊丸師匠をお招きしての西徳寺寄席、出来れば来年も続けたいと考えておりますので、どうぞ今年ご縁に遇えた方も遇えなかった方も、楽しみにお待ちしております。



絵手紙教室のご案内

「ヘタでいい、ヘタがいい」が合言葉。皆さんのご参加をお待ちしております。

・講師 直方市感田 油布 紀美子先生
・場所 西徳寺門信徒会館

・会費 五〇〇円を参加した時だけ

・第二百六八回 七月二十六日(金)

・第二百六九回 八月二十三日(金)

午後一時三〇分より

三時三〇分まで



おわりに

次男 優徳が六月十五日、得度式を終え浄土真宗本願寺派の僧侶 釋優徳とならせていただきました。住職になるためには、さらに教師という資格が必要で、そのためには今一度研修施設に入所しないといけないのですが、まずは一人の僧侶の誕生です。研修施設から出る際、入所時に預けていたスマートフォンを受け取ると、すぐに不登校時代に寄り添って下さった先生に電話して僧籍を取ったことを報告したとのこと。本人なりに色々考えているようです。

私の夢は僧侶となった長男・次男と三人そろって一緒に西徳寺本堂でお参りすること。間もなく夢が叶いそうです。南無(院)

